



トポロジカルフォノンクス / メカニクスとその周辺科学の展開

2016年のノーベル物理学賞以来、電子系の波動関数の位相幾何（トポロジー）に着目したトポロジカル絶縁体の研究が国内外で盛んである。本シンポジウムでは、このトポロジーの枠組みを音や弾性波等の制御に応用するトポロジカルフォノンクス / メカニクスに関する最新の研究を中心に、フォトンクスやスピントロニクス等、その周辺科学の第一線で活躍する研究者の講演も交え、最近の展開と今後の展望について議論する。

招待講演者（仮題）

初貝 安弘（筑波大）

バルクエッジ対応の科学：古典力学系への期待

岩本 敏（東大）

フォトンクスの視点で眺めるトポロジカルフォノンクス

林 将光（東大）

スピントロニクスとフォノンクス

友田 基信（北大）

古典振動子系におけるバンドギャップ形成と
トポロジカルな境界モードの演示

山口 浩司（NTT）

電気機械共振器アレイにおけるトポロジカルソリトン

能崎 幸雄（慶大）

非一様系の局所角運動量に由来する磁気回転効果
を用いたスピントロニクス

世話人：畑中大樹（NTT），鶴田健二（岡大）
問合せ先：daiki.hatanaka.hz@hco.ntt.co.jp